

SNS時代の 日中関係とメディア

「相互憎悪」超え「共生」できるか

2026年 **11月14日** (土) 15:00-18:00

会場 北海道大学FMIフード&メディカルイノベーション国際拠点 多目的ホール

地下鉄南北線 北18条駅から徒歩約20分

 **オンライン配信あり**

昨年11月以降、厳しい状況が続く日中関係。11月18～19日に中国・深圳で開催されるAPEC首脳会議を機に、高市早苗首相と習近平国家主席の会談は実現し、関係改善の糸口を見いだせるのか。相手国への憎悪や不信は、日中それぞれのSNS上でどのように語られ、広がるのか。本シンポジウムでは、中国人の対日認識がいかに形成されるのかを世論調査をもとに探り、SNS上のナラティブ（語り）を分析する。これらを通じて日中関係の現在地を多角的に捉え、対立や相違を直視しながら、相互理解と共生に向けてメディアが果たしうる役割を議論し、提言につなげる。

プログラム

14:30 受付開始

15:00 開会

司会・モデレーター：城山英巳

15:00 城山英巳

北海道大学大学院メディア・
コミュニケーション研究院教授

報告「中国人の対日認識形成過程に関する
世論調査」結果

15:20 劉傑

早稲田大学社会科学総合学術院教授
基調報告「日中関係の現在地」

15:50 市原麻衣子

一橋大学大学院法学研究科教授

報告「日本SNS上での中国の影響工作」

16:10 于海春

北海道大学大学院メディア・
コミュニケーション研究院准教授

報告「中国SNSの対日言説」

16:30 休憩

16:40 阿古智子

東京大学大学院総合文化研究科教授

報告「海外華人」と創る新しい公共圏」

17:00 竹内誠一郎

読売新聞社編集委員

報告「SNS時代のメディアの役割」

17:20 パネルディスカッション・質疑応答

18:00 閉会

会場アクセス



参加申込

参加無料

要事前登録・定員200人
こちらから
お申し込みください→

連絡先：城山英巳

shiroyama@imc.hokudai.ac.jp



主催 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院/読売新聞北海道支社

助成  公益財団法人
りそなアジア・オセアニア財団

2026年、北海道大学は創設150周年を迎えます。



北海道大学

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

※本シンポジウムの一部は、JSPS科研費 JP24K04734 (基盤研究(C)「調査報道なき社会」がもたらした中国の姿容—記者追跡調査を通じた実証研究)の助成を受けて実施します。